

外国語科「総合英語」授業実践紹介

授業者：銭花 絵里

学 年：3年

単元名：「この国と言えばこれ！！」をプレゼン発表する

本時のねらい

- ① Lesson10「イギリス人と紅茶」で学んだ、ある物を説明する際の文章構成などを参考に、説得力のある原稿を書く力を養う。
- ② 伝えたい情報を細かくリサーチし、インパクトのある写真やイラストなどを用いて発表を効果的に行う力を養う。
- ③ 堂々と人前で発表ができる力(アイコンタクト・声の大きさ・表現方法など)を養う。

単元の流れ（全4回）

- ①グループで、「この国と言えばこれ！！」というものを決定する。決定した物の歴史や現在の状況などを海外のサイトなども使用して調べる。
- ②「イギリス人と紅茶」の題材で学んだ、ある物を説明するときの順序や構成など参考に、説明する物のストーリー、原稿をグループで考えていく。
- ③原稿を元にパワーポイントを作成する。
- ④ルーブリックを確認し、評価の観点を意識しながら発表する。

プレゼン発表の様子



アメリカといえば
スタバ



日本といえば
抹茶

単元を通して身につけてほしいこと

プレゼンテーションとは設定された時間内で聞き手に情報を伝えることである。そのためには伝えたい情報を細かくリサーチし、インパクトのある写真やイラストなどを用いて、発表を効果的に行う力が必要である。そしてアイコンタクトを取りながら、堂々と人前で話す力も重要とされている。進学や就職先で少なからずプレゼンテーションをする機会はあると考えられ、さらには英語で海外の大学や企業と交流をすることもあろう。この単元を通して、魅力あるプレゼンテーションを発表できる力を身につけてほしい。

実践の背景

- 本実践を行う前に、「イギリス人と紅茶」という題材で、紅茶のイギリスにおける位置づけから紅茶の歴史、そして現在ではどのような形式がとられているのかという文章構成の英文を読解した。本実践においては、「イギリスと言えば紅茶」のように、イメージしやすい物を生徒自身で決定し、決定した物を日本語でリサーチするだけでなく、英語のサイトなどではどのように表現されているのかなども参考にさせた。前時で学んだ文章の構成を元に、論理的に説明する能力を身につけて欲しいと思う。また、2年次生の時から、幾度と日本語や英語でプレゼン発表をする機会を設けているため、ある程度人前で自分の考えを伝えることには慣れている。しかし、今回はリサーチした事を効果的に発表する力をさらに伸ばして欲しいと思い授業を計画した。

授業改善のアプローチ

- 担当者は、「日本人と納豆」というプレゼンテーションを例として作成し、論理的に、なおかつ英語圏の国で納豆の説明はどのようにされているのかを様々なオーセンティックの資料からリサーチして構成する方法などを指導した。
- プレゼン発表の際に気をつけるべき点を事前にデモンストレーションし、生徒にゴールのイメージを鮮明にさせた。
- 将来、大学や就職先などで、英語でプレゼン発表をする機会があると想定し、限られた時間で聴衆に情報を伝えることができる力をつけて欲しいと思い、今回の単元を設定した。

単元のヤマ場となる授業場面

前ページの『単元の流れ』を参照

- 英語に限らず、プレゼン発表をする際に気をつけるべき点は多数あるが、特にこの単元では、限られた時間内に論理的に物事を説明する力を伸ばすことに重点を置いた。
- 発表後の振り返りからは、「パワーポイントのスライドが綺麗でとても引きつけられた上、その説明もわかりやすかった。」「イタリアのピザのことについて、簡潔に順序を追って説明されていたので理解しやすかった」など。発表の態度の観点からは、「原稿を暗記して聴衆の目を見ることができるようになりたい。」「もっと聴衆を巻き込むような問いかけややり取りなどを織り交ぜているチームが良かった。」などがあがった。

パフォーマンス課題

「この国と言えばこれ！！」という物を英語でプレゼン発表することができる。

- ①各スライドにつき5文以上の英語で説明をする。
- ②1人1枚以上のスライドを担当する。

評価

次の2点で2学期の評価とする。

- ①パフォーマンス課題+毎授業のノート評価+その他の課題に対する評価 (40%)
- ②定期考査による評価(60%)

発表時の採点の基準と観点

	声	目線・態度	内容	創意・工夫
5点	相手にわかりやすいように間や抑揚に気をつけながら、はっきりと大きな声で発表している。	相手と目を合わせながら発表している。ユーモアやジェスチャーなど相手に伝える工夫ができています。	スライド一枚につき説明文が5文以上。	使われている語句・内容に工夫が見られる。 ※スライドのつながりを意識した表現や、接続詞などを使用している。
3点	部分的に間や抑揚に気をつけたり、ところどころ聞こえない声で発表している。	原稿にところどころ目を落としながら発表している。(3回まで)	3~4	
1点	聞き取りにくく、間や抑揚に工夫がない。	相手を見ず、原稿を見ながら発表している。	2つ	